

個別施策

- E6-1 子どもから高齢者までが快適に安心して住める市営住宅を供給します
- E6-2 民間住宅ストックの有効活用を図ります
- E6-3 安全・安心な民間住宅・建築物の普及を促進します

ア 施策の目的

市民が、ライフスタイルにあった安全な住宅・建築物に、安心して居住している。

イ 成果指標（「↑」は目標値を上回ることが望ましい指標、「↓」は目標値を下回ることが望ましい指標）

指標名	基準値 (時期)	区分	H28	H29	H30	R1	R2
市営住宅入居者の住宅への満足度※	63.7% (26年度)	↑ 目標値	70.0	70.0	70.0	70.0	70.0
		実績値	66.7	69.5	68.9	/	/
		達成率	95.3%	99.3%	98.4%	/	/
住宅の耐震化率	80.4% (26年度)	↑ 目標値	83.0	86.0	89.0	92.0	95.0
		実績値	81.8	82.6	83.0	/	/
		達成率	98.6%	96.0%	93.2%	/	/

※入居者へ住まいの満足度についてアンケートを実施し、家賃、日当たり、間取り、設備等について満足、やや満足と回答した世帯の比率を指標としている。

ウ 審議会における施策推進に向けた提案

- 耐震改修の問題点について、建築士会では毎月、住宅の無料相談会の中で対応をしているので、併せてPRをしてもらいたい。

エ 次期総合計画の策定に向けた意見

- 次期総合計画において、成果指標の目標値のみを見直すということであれば、成果指標の目標値を達成できていない原因をしっかりと分析しなければならない。
- 成果指標の検証について、施策全体を見ると市営住宅に限らず、民間住宅も対象となるので、市営住宅の満足度だけで成果指標を適切とすることは疑問に思う。
- 施策全体の成果を表す指標であるべきなので、全ての市民が対象となるよう成果指標を検討していただきたい。
- 住宅や道路環境に関する施策については、ハード面の状況の変化を成果指標として捉えているが、将来のまちの形にどう活かしていくのか、どのような効果を与えるのかといったソフト面の評価を成果指標に入れていかなければならない。